

宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会ニホンジカ部会 議事概要（令和2年7月17日開催）

項目	意見の概要	回答
ニホンジカ 管理事業実 施計画につ いて	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な調査を行い、必要な情報を得ながら、対策が立案されていると思います。</li> <li>気仙沼地区、女川地区の捕獲数の増加が気になります。捕獲努力が強まったことに原因があるのか、捕獲努力は前年並みなのにシカの増加がそれを上回ったために捕獲数が増加しているかの判断をしながら、対策をする必要を感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>狩猟のCPU Eの検証を行い、捕獲数増加の要因を探っていくこととします。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>半島部では、土屋先生らの調査で密度が少しずつ減少しつつあるとのことですが、黒森山、高白浜、風越などでも糞塊調査によると生息密度はやや下がっています。気仙沼地区などでも、このような調査が実施されると良いかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>糞塊密度調査は気仙沼地区でも実施しているので、気仙沼も含めた各地区での年変動等について、後日データでお示ししたいと思います。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>また、もし可能であれば、行動把握調査を継続し、メスにもGPS首輪を付けて追えれば良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内陸北部地域における行動把握調査は令和2年度で終了予定ですが、国補助事業の動向も勘案しながら、継続について検討して参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間捕獲目標1,920頭以上に対し、3,551頭が捕獲された。この捕獲頭数をどのように評価するか。たとえば目撃数や糞塊調査結果に変化が現れているかどうか。フィードバックし今後の計画や事業実施に反映されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理計画策定当時は、当時の推定生息数や狩猟者人口等から1,920頭以上という目標を設定したのですが、現状の捕獲数についてはCPU Eや糞塊密度調査結果等も踏まえながら検証して参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>狩猟捕獲補助が年間600頭に対し活用が半数以下。使い勝手など活用を阻害している要因があるのであれば、改善を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不正受給等防止のために、一定程度の書類の作成は必要となりますが、狩猟者への事業の周知等に引き続き努めて参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害防除対策において、石巻専修大の調査で非常に参考になるデータが得られている。県や他市町で共有し、有効な対策実施につなげて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有可能なデータについては、関係各機関で情報提供し、各地域での有効な対策につながるよう努めて参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内のシカの増減を見るために林業技術総合センターは糞塊法と区画法による調査を実施しています。この調査による生息数の推定を毎年しています。報告書にはありませんが。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度から平成30年度まで、糞塊法と区画法の調査結果等からベイズ推定によるニホンジカの生息数推定を実</li> </ul>

項目	意見の概要	回答
		<p>施していましたが、大まかな傾向には変動がないため、令和元年度はベイズ推定は実施しませんでした。次期管理計画策定に向け、令和2年度はベイズ推定を実施中です。</p>
<p>指定管理鳥獣捕獲等事業(ニホンジカ)令和元年度評価報告書及び令和2年度実施計画について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 錯誤捕獲の情報については、今後は収集される方が良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度事業からは、錯誤捕獲の記録について受注者と検討して参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浅間山ではクマがくくりわなにかかったシカを捕食し、捕獲作業者にも攻撃的な行動をする例が増えてきました。捕獲作業者に警戒をしていただくと同時に、くくりわなの設置場所の選定にも注意し、ハイカーや山菜採りなど山に入る人に被害が出ないようにしていただきたいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県ではツキノワグマ出没位置をグーグルマップにして公開し、県民等への注意を促しています。今後も引き続き注意喚起に努めて参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捕獲目標を達成できなかった点については、巻狩りに対する慣れが出てきているのかもしれませんが、いろいろと検討していただければと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捕獲期間の設定や捕獲場所の選定等、今後も効率的、集中的に捕獲できるよう受注者と調整して参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出猟カレンダーは、上記の検討のためにも重要な資料になると思います。ぜひ精度を落とさないようにしていただきたい（作業者にとっては面倒な作業ではありますが。）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捕獲従事者に対し、出猟カレンダーの記載方法等について指導し、より精度の高いデータとなるよう努めて参ります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雌雄比についてですが、銃・わな共に、地域による偏りはないでしょうか。差が無いかもしれませんが、地図に表現して頂けるとありがたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データを取りまとめ、後日お示ししたいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵王町が実施区域に入っていますが、先行でしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵王町内ではニホンジカの捕獲実績はありませんが、近隣の村田町等で年数頭単位での捕獲があることから、町からの要望も踏まえて実施区域としたものです。</li> </ul>	